

最新版
(審査後)

2024年7月19日

エコアクション 21

環境経営レポート

2023年度



【運用期間】 2023年7月 ～ 2024年6月



株式会社 東 建装

初版作成

2023年10月16日

第 1回 変更

2024年7月

【 目 次 】

表 紙

目 次

1. 事業概要	-----	1
1】事業者名及び代表者名		
2】所在地		
3】環境管理責任者及び事務局		
4】連絡先		
5】事業活動の内容		
6】適用事業範囲		
7】事業規模		
8】組織図	-----	2
2. 環境経営方針	-----	3
3. 環境経営目標	-----	4
4. 環境経営目標の実績	-----	5
5. 環境経営計画と取組結果とその評価	-----	6
6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	-----	7
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無	---	8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	-----	9

1. 組織の概要、対象範囲

1】事業者名及び代表者名

株式会社 東 建装

代表取締役 後藤 正樹

2】所在地

〒 880-0044

宮崎県宮崎市瓜生野2218番地



3】環境管理責任者及び事務局

EA-21 責任者 : 池田 浩己

EA-21 事務局 : 中西 智子

4】連絡先

連絡担当者 : 池田 浩己 (EA21 責任者) ・ 中西 智子(事務局)

TEL 0985-41-0235 FAX 0985-41-0343

E-meil : h.ikedada@azuma-kensou.com (池田)

t.nakanishi@azuma-kensou.com (中西)

5】事業活動の内容

建設業 (建築工事業,とび・土工工事業,鋼構造物工事業,塗装工事業
内装仕上工事業,防水工事業,大工工事業)

6】認証・登録事業範囲

・対象組織

本社 : 宮崎県宮崎市瓜生野2218番地

土場 : 宮崎県宮崎市瓜生野

・対象活動・・・建設業

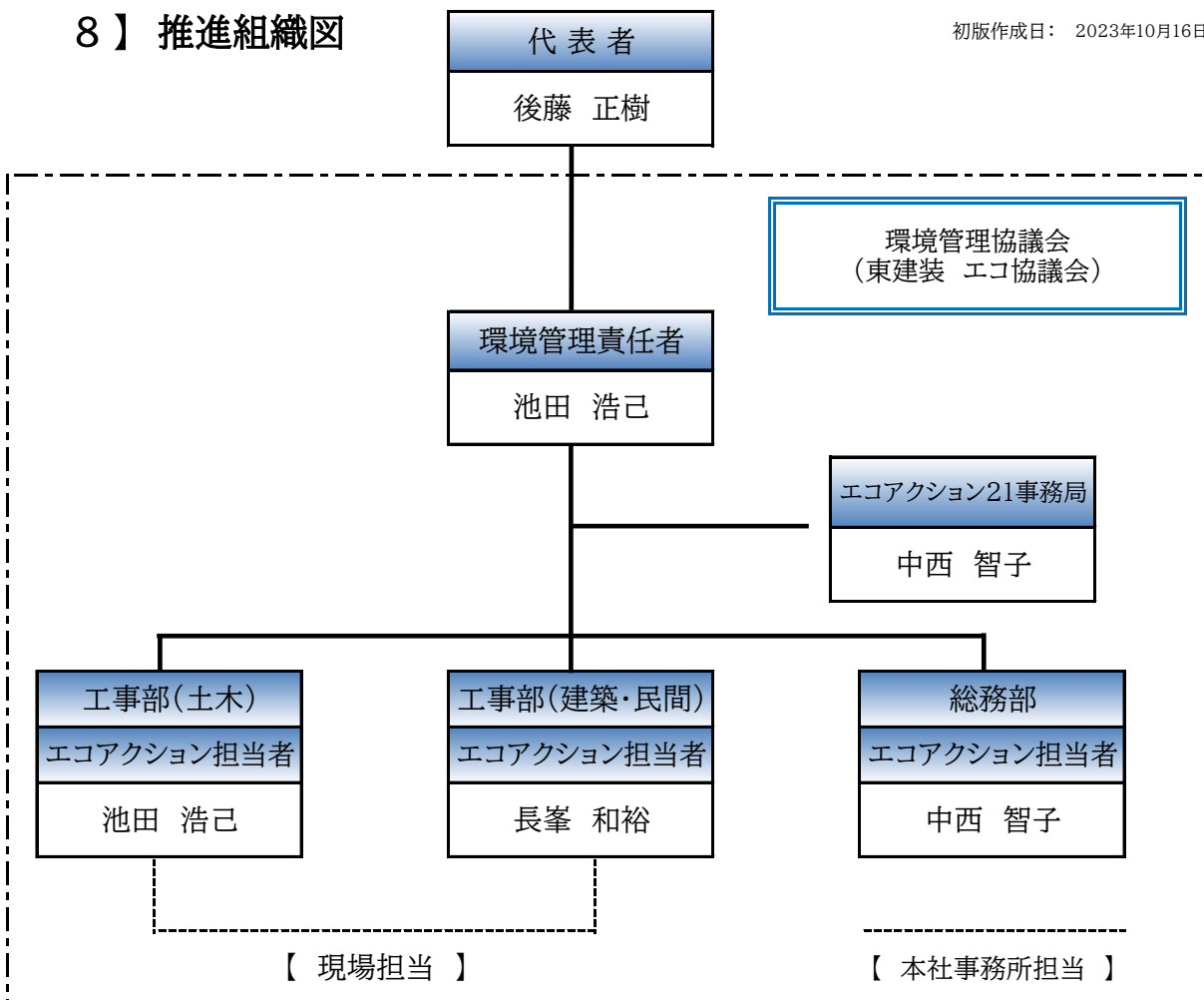
(建築工事業,とび・土工工事業,鋼構造物工事業,塗装工事業
内装仕上工事業,防水工事業,大工工事業)

7】事業規模

項 目		単 位	2021年	2022年	2023年	2024年
売上高		百万円	329	248	335	
従業員数		人	12	12	13	
床面積		m ²	95	95	95	95
敷地面積	事務所	m ²	1,080	1,080	1,080	1,080
	土場		710	710	710	710

8】推進組織図

初版作成日： 2023年10月16日



代表者	1. 環境経営方針の策定 2. 環境経営目標の達成状況把握及び見直し・指示 3. 環境経営計画レポートの承認 4. 環境経営目標・環境経営計画の承認
環境管理責任者	1. 環境経営目標及び環境経営計画の策定 2. 環境計画目標の達成状況の確認と是正処理 3. 環境経営レポートの作成 4. EA21に関する実績把握と報告
事務局	1. 環境負荷及び環境活動データの収集・集計 2. 環境文書及び記録の作成・管理 3. 教育訓練計画の策定と実施
各部担当者	1. 環境経営目標達成のため、他の従業員への環境活動の指導 2. 環境活動取組状況報告 ※工事部門 ・廃棄物の分量計量 ・現場周辺の整理、整頓 ・問題点の是正処置 ※事務所(営業部含む) ・室内の温度管理 ・廃棄物の分量計量 ・使用電気の管理

環境経営方針

経営理念

株式会社 東建装は、昭和43年の創業以来「塗装工事」の専門業者として社会基盤の整備維持の一部を携わって参りました。

我々建設業は、品質と信頼性に基づいて「お客様」に最高の価値を提供することです。その為に我社は、「お客様」のニーズと要求を理解し高品質な工事の提供と納期の厳守を通じて、「お客様」の期待を超えるサービスを提供することに努力を尽くし、「お客様・従業員・パートナー企業」との長期的なパートナーシップを築き共に成長し続けることを目指します。

また、我社は持続可能性を重視し、環境に配慮した「建設プラクティス」を追求します。

環境経営方針

当社は、環境法・規則及び関連する要求事項を順守し環境リスクを最小限に抑えるための体制を整備し、環境マネジメントシステムの確立と継続的な改善を通じて環境への影響を定量化し、持続的な改善を実現します。

以下の項目を継続的に取組むことを誓約します。

1. 全ての事業活動に関わる環境関連法規、条例等を遵守します。
2. 環境負荷の低減や環境改善を図るため、次の事項に重点的に取組みます。
 - ① 生物多様性の保全等のため、省エネルギー(電力・ガソリン使用量の削減)の推進により「二酸化炭素排出量」の削減に努めます。
 - ② 廃棄物の削減及び適正処理の推進に努めます。
 - ③ 節水の推進に取組みます。
3. 化学物質を把握し、適正管理に努めます。
4. この「環境経営方針」は、全従業員に周知し社内外に公表します。

2023 年 6 月 30 日 制 定 (初版)
改 定 -

株式会社 東 建装

代表取締役 後藤 正樹

3.環境経営目標（第一次）

- ・当社の環境目標は、(2022年7月～2023年6月) 1 ヶ年実績 により以下のような目標を設定いたしました。
- ・削減項目は、基準年度(2022年7月～2023年6月)実績値から毎年「0.5%」削減する「環境経営目標」を目指す。
- ・当社の現場での各使用量が少量のため、全て本社での数量管理とします。

制定;2023年7月1日

取組項目 (目標項目)(単位)			実施区	年度別環境目標			
				基準値 (2022年度)	2023年度 (0.5%削減)	2024年度 (1.0%削減)	2025年度 (1.5%削減)
				2022年7月 ～ 2023年6月	2023年7月 ～ 2024年6月	2024年7月 ～ 2025年6月	2025年7月 ～ 2026年6月
A. 二酸化炭素排出量の削減 (Kg-CO ₂)			全体	40,071	39,871	39,670	39,470
1	電気使用量の削減 (排出係数0.392)	kWh	本社	11,201	11,145	11,089	11,033
		Kg-CO2		4,391	4,369	4,347	4,325
	ガソリン使用量の削減 (排出係数:2.32)	L	本社	12,064	12,004	11,943	11,883
		Kg-CO2		27,988	27,849	27,709	27,569
	軽油使用量の削減 (排出係数:2.58)	L	本社	2,981	2,966	2,952	2,937
		Kg-CO2		7,692	7,653	7,615	7,577
※上記(A)排出量 (原単位: Kg-CO2/百万円)			本社	133.57	132.90	132.23	131.57
2	一般廃棄物の削減 (可燃物)	Kg	本社		分別計量	2023年度比0.5%削減	2023年度比1%削減
				0.00	226.20	225.07	223.94
	※上記排出量 (原単位: Kg-CO2/m2)			(目標値)	2.38	2.37	2.36
	リサイクルの向上 (段ボール・紙)	%	本社	リサイクル率 100%			
3	建設副産物廃棄 方法の遵守	%	本社	リサイクル率 31%	リサイクル率 95%以上		
※上記(3)水使用量 (原単位: m3/m2)			本社	3.71	3.69	3.67	3.65
4	化学物質使用量の管理 (安全データシート(SDS)教 育		本社	2回実施/年 SDSに基づき適 正管理	2回実施/年 SDSに基づき適 正管理	2回実施/年 SDSに基づき適 正管理	2回実施/年 SDSに基づき適 正管理
5	自らが施工する土木建築物の 環境性能の向上及びサービスの 改善		全体	環境経営計画の遵守を目標としています。			

※ 購入電力の排出係数は、令和5年1月環境省公表の九州電力調整後排出係数0.392を使用しています。

※ 一般廃棄物総排出量は、1袋/45L=5Kgで算出しています。

※ 一般廃棄物総排出量(原単位)は、本社床面積(95m²)当りの排出量、使用量です。(参考指標として管理しています)

※ 水使用量(原単位)は、本社床面積(95m²)当りの排出量、使用量です。(参考指標として管理しています)

※ 二酸化炭素排出量(原単位)は、売上平均300百万円当りの排出量、使用量です。(参考指標として管理しています)

※ ()は、基準年度に対する削減率です。

4. 環境経営目標の実績

※ 2023年7月から2024年6月までの「 1年間 」の実績は以下の通りです。

取組項目 (目標項目)(単位)			実施区	年度別環境目標				
				基準値(2022年度)実績値	2023年度		目標達成率 (%)	達成状況判定
				2022年7月	2023年 7月 ~ 2024年 6月			
				~ 2023年6月	目標(0.5%削減)	実績		
A. 二酸化炭素排出量の削減(Kg-CO ₂)			全体	40,070	39,870	36,065	110.6%	○
1	電気使用量の削減 (排出係数:0.392)	kWh	本社	11,201	11,145	10,567	105.5%	○
		Kg-CO2		4,391	4,369	4,142		
	ガソリン使用量の削減 (排出係数:2.32)	L	本社	12,064	12,004	10,993	109.2%	○
		Kg-CO2		27,988	27,849	25,504		
	軽油使用量の削減 (排出係数:2.58)	L	本社	2,981	2,966	2,488	119.2%	○
		Kg-CO2		7,691	7,652	6,419		
※上記(A)排出量 (原単位: Kg-CO2/百万円)			本社	133.57	132.90	120.22	110.6%	○
2	一般廃棄物の削減 (可燃物)	Kg	本社	-	226.2	226.2	—	-
		袋		0	45	45		
	※上記排出量 単位: Kg-CO2/m2)			(原	計量なし	2.38		
	リサイクルの向上 (段ボール・紙)	%	本社	リサイクル率 100%			100.0%	○
	建設副産物再資源化率の向上	%	本社	31.0	95%	63.8% (38929/61035)	67.2%	×
3	水資源使用量の削減	m3	全体	352.0	350.2	352.0	99.5%	△
※上記(3)水使用量 (原単位: m3/m2)			本社	3.71	3.69	3.71	99.5%	△
4	化学物質使用量の管理 (安全データシート(SDS)教育		本社	2回実施/年 SDSに基づき適正管理	2回実施/年 SDSに基づき適正管理	2回実施/年 SDSに基づき適正管理	100%	○
5	自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善		全体	環境経営計画の遵守を目標としています。			100%	○

備考)

- ・達成状況評価区分 ◎：120% ≤ 目標達成率、○：100% ≤ 目標達成率 < 120%、△：80% ≤ 目標達成率 < 100%
 ×：目標達成率 < 80%、-：判定負荷
- ・目標達成率の計算 削減目標の場合：目標 ÷ 実績 × 100 増加目標の場合：実績 ÷ 目標 × 100
- ・目標達成率は、原単位を優先し達成判断を行う。

5.環境経営計画と取組結果、及びその評価

取組項目			環境経営活動計画		取組状況	評価
二酸化炭素排出量の削減	電力消費量の削減		1	不使用箇所の電灯消灯の徹底	・エアコンの設定温度の調整は実施できている。又衣服の調整などの省エネ対策を行って使用頻度を削減している。 ・今後も無理なく効率的に節電できるように改善を努める。	○
			2	エアコン温度の設定温度を定める (夏季:27度・冬季20度)		◎
			3	夏場のクールビズ・冬場のウォームビズの推進		○
	化石燃料消費量 (ガソリン) (灯油) (軽油) の削減	ガソリン	1	エコドライブの徹底 (空ぶかし・急加速等の禁止等)	・エコドライブ等のガソリン使用量の削減取組も従業員の意識の向上により実施されている。 ・「2tトラック」の空ぶかし等による燃料の無駄遣いが多少ではあるが見られてきた。	○
			2	折り返し運転ゼロの徹底		○
			3	車両点検(空気圧・トランク内の不用材撤去等)		○
		軽油	1	「2tトラック」のエコドライブの徹底 (空ぶかし・急加速等の禁止等)		○
			2	低燃費型機械使用の促進		○
・一般廃棄物の削減			1	資源物の再生利用できるように分別の徹底 (最終処分量の削減を目指す)	・エコアクション21をスタート前は計量していなかったので、現在の計量結果を次回の目標とし、削減に努力していきたい	○
			2	コピー用紙の裏面使用及び両面コピー等の集約コピーを努める		○
・建設副産物の再資源化率の向上			1	在庫確認・設計書確認の徹底による計画的資材購入	・発生した余剰材料は保管し、再利用するようにしている。 ・公共工事に関しては、設計図書を満足するようマニフェストによる管理を徹底している。	○
			2	建設残余材が発生したら、資材倉庫管理による再利用の促進		○
			3	現場で発生する廃棄物は、分別し混合廃棄を削減する		○
・水資源使用量の削減			1	蛇口付近に節水シールを標示する。	・節水行動は定着している。	◎
			2	蛇口の漏水の定期的確認		◎
・化学物質使用量の削減・管理			1	特定化学物質の使用量管理	・各現場で取組は適正に行われている。 ・SDSシート管理・教育も適切である。	○
			2	SDSによる教育の促進		○
・自らが施工する土木・建築物の環境性能の向上及びサービスの改善			1	工期短縮の創意工夫を行う。	・現場における工期短縮の工夫を行い施工を行っている。 ・現場で使用する小機械等は、排ガス対策機械を使用している。	○
			2	粉じん発生低減施工に努める(出入口の低速走行・低粉じん型機械使用促進)		○
			3	排出ガス対策型建設機械等の使用・未使用時のエンジン停止		○

・取組実施状況判定区分 ◎:よく実施できている(定着)、○:実施できている、△:概ね実施できている、×:実施できていない、-:判定不可

6. 次年度の環境目標と環境活動計画

取組項目	活動内容
二酸化炭素排出量の削減 (39,670 Kg-Co2)	省エネ活動の推進
・電気使用量の削減 (11,089 KWh)	1 不使用箇所の電灯消灯の徹底
	2 エアコン温度の設定温度を定める(夏季:27度・冬季20度)
	3 夏場のクールビズ・冬場のウォームビズの推進
・ガソリン使用量の削減 (11,943 L)	1 エコドライブの徹底(急加速等の禁止・アイドリングストップ等)
	2 折り返し運転ゼロの徹底
	3 車両点検(空気圧・トランク内の不用材撤去等)
・軽油使用量の削減 (2,952 L)	1 「2tトラック」のエコドライブの徹底(空ぶかし・急加速等の禁止等)
	2 低燃費型機械使用の促進
・一般廃棄物の削減 (2023年比1%削減)	1 資源物の再生利用できるよう資源物の再生利用できるように分別の徹底
	2 コピーは裏紙使用や両面、縮小、集約化に努める
・建設副産物再資源化率の向上 (95%以上)	1 在庫確認・設計書確認の徹底による計画的資材購入
	2 建設残余材が発生したら、資材倉庫管理による再利用の促進
	3 現場で発生する廃棄物は、分別し混合廃棄を削減する
・水資源使用量の削減 (348.5 m3)	1 蛇口付近に節水シールを標示する。
	2 蛇口の漏水の定期的確認
・化学物質使用量の削減・ 管理(適正管理)	1 特定化学物質の使用量管理
	2 SDSによる教育の促進
・環境配慮型工法の提案 環境活動計画の遵守	1 工期短縮の創意工夫を行う。
	2 粉じん発生低減施工に努める(出入口の低速走行・低粉じん型機械使用促進)
	3 排出ガス対策型建設機械等の使用・未使用時のエンジン停止

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

・当社に関連する主な法規制は下表の通りである

当社の創業以来、弊社に適用となる環境関連法規についての違反・指摘・訴訟はありません。

現場の遵守状況は、月1回の安全パトロール・店社会議等にて常に監視しています。

当社の事業に関する主な環境関連法規は以下の通りです。

法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	・廃棄物の削減	○
	・廃棄物の適正処置の確保	
	・廃棄物の委託契約の締結・マニフェストの交付	
	・産業廃棄物管理表の管理義務(5年間)	
	・3号様式による県知事への報告	
騒音規制法	・規制基準の遵守	○
	・該当する工事は届出と計測実施	
振動規制法	・規制基準の遵守	○
	・該当する工事は届出と計測実施	
労働安全衛生法	・有機溶剤中毒予防規則・第3種有機溶剤等	○
	・名称等を表示すべき有害物	
	・通知対象物	
	・引火性のもの	
建設リサイクル法	・分別解体実施義務の遵守	○
	・再資源化等の実施義務の遵守	
	・発注者への報告義務の遵守	
大気汚染防止法	・工事における届出、規制値の遵守	○
オフロード法	・排出ガス適合機械の使用	○
	・適合シールの貼付と確認	
宮崎県・宮崎市環境基本条例	・汚水、廃棄物等の処理、その他の公害防止	○
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成	○
	・再資源利用促進計画書・実施書の作成	
指定副産物利用促進省令	・再生資源利用促進計画の作成	○
建築物省エネ法	・省エネ性能説明義務	○
工事発注者(設計図書関係)	・特記仕様書の確認・履行の厳守	○

・遵守判定区分 ○:遵守、×:不遵守、—:該当なし

8:代表者による全体評価と見直し結果

全体取組状況の評価

我々は、エコアクション21認証に向けての取組を「2023年7月」から始めました。「環境法・規則及び関連する要求事項を順守し環境リスクを最小限に抑えるための体制を整備し、環境マネジメントシステムの確立と継続的な改善を通じて環境への影響を定量化し、持続的な改善を実現します。」をスローガンに活動を開始し1年が経過しました。

全社員が環境活動の重要性・必要性を理解して取組んだ結果、省エネ・省資源活動を意識して出来るようになりましたが、部署毎・月毎に達成出来ていないときもありましたが「数値目標」を全てクリア出来るようにこれからも継続して取組んでいきます。

今後の取組・目標見直し

今後も環境経営方針、目標、計画、実施体制についても現行を継続することとします。今まで通りの取り組み方法で微力ながらも一人一人が環境への意識を高め、身近な事から出来ることを実践し継続したいと思います。

今後の代表者による指示

実施体制の変更はなし。継続すること。

但し、今後目標値の削減「-0.5%/毎年」が適切かどうかを検討していくこと。

又、原単位による管理も出来高により大きく変化するので基準になる数字を考える事。

令和6年8月1日
株式会社 東建装
代表取締役 後藤 正樹